

昭和 43 年度 土木学会誌登載懸賞論文を募集します

土木学会誌編集委員会では、明春新年号（第 54 巻第 1 号）登載の下記論文を懸賞募集します。各位研さんのうえ、より多く応募されますようご案内申し上げます。

土木学会誌編集委員会

記

1. 主題および希望する論文内容

＜主 題＞ 土木学会のあるべき姿——関連学協会の動向も含めて——

欧州で誕生した“学会”という組織体は時代とともに成長し、科学史の中に多大な足跡を残して今日に至っている。この組織体“学会”も、生誕間もないころのそれと、今日のそれとは、その内容、規模、性格、活動状況等においていささか異なるとはいえ、各時代にあってそこに集積され続けてきたマンパワーは常に一流のものである。人が歴史と智力を駆使して、よりよき社会を建設してきたと同様に、“学会”という組織体も、常に新しい動向をとり入れて、より大きな成長をとげてゆかねばならないものであるのかもしれない。学問の最前線を歩く人、施工の先人となる人、そして専門の知識を習得中の人——集まって、語って、向上してゆく専門の城、そんな“学会”のあるべき姿に焦点を合せて、新しい時代に花開かせるために、今日何をなすべきかを解明していただきたい。人様々、思索の形式も思惟の形態も異なることゆえ、温室育ちの如き意見のみではないかも知れないし、昭和元祿の夢破る論文が提出される可能性も十分にあるかも知れませんが、この点についても審査に際して十分に意をつくす考えであります。学問・技術の進展は、専門の分化を助長します。今日、ますます増えるであろう関連分野の学会・協会のあるべき姿もあわせ論及されることを歓迎いたします。

2. 応募資格

土木学会名誉会員、正会員、学生会員に限りません。ただし、土木学会誌編集委員会委員は応募資格を有しません。

3. 応募要領

上記 1. 記載の内容につき、1 人 1 編のみ応募できます。応募に際しては、本票裏面に必要事項を明記のうえ添付して下さい。論文は必ず書留便で土木学会事務局編集課（東京都新宿区四谷 1 丁目・郵便番号 160 番）へご送付下さい。

4. 原稿用紙および論文の長さ

横書き原稿用紙（400 字詰）を使用、最高 20 枚をもってまとめて下さい。

5. 原稿締切

昭和 43 年 10 月 21 日（月）学会着便までを受け付けます。

6. 審査および発表

土木学会誌編集委員会が審査をなし、上位入賞（一席および二席）を会誌第 54 巻第 1 号誌上に登載します。なお、同時に入賞者の発表もあわせ行ないません。

7. 賞

一席（1 名）：本賞および副賞 4 万円

二席（1 名）：本賞および副賞 2 万円

三席（2 名）：本賞および副賞 1 万円

佳作（4 名）：記念品

以 上

論 文 送 付 票

記 事	記 入 欄
論 文 名	
応 募 者 名	
会 員 の 区 分	<input type="checkbox"/> 名誉会員 <input type="checkbox"/> 正 会 員 <input type="checkbox"/> 学生会員
勤務先および職名	
	電 話 () () 番, 内線 番
自 宅 住 所	郵便番号 <input style="width: 50px;" type="text"/>
	電 話 () () 番
専 門 お よ び 学 位	
生 年 月 日	明 治 年 月 日 生 (満 年) 大 昭 和
連 絡 事 項	

(以下記入しないで下さい)

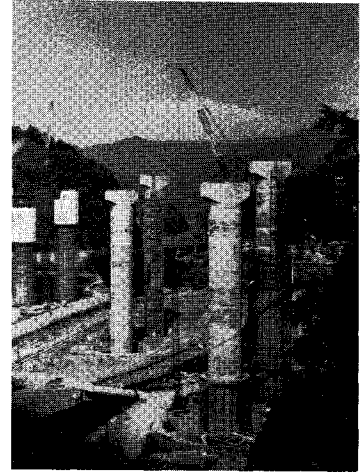
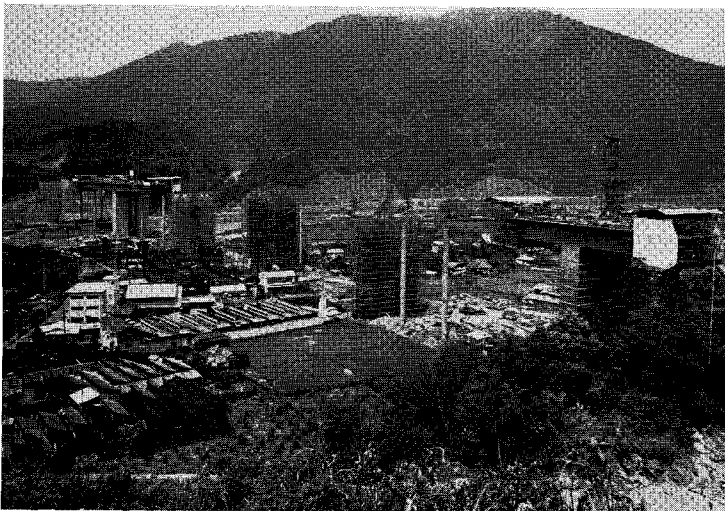
受 付 年 月 日; 月 日 時
 受 付 番 号; 第 号
 審 査 記 号;

明春全線開通する 東名，中央高速道路



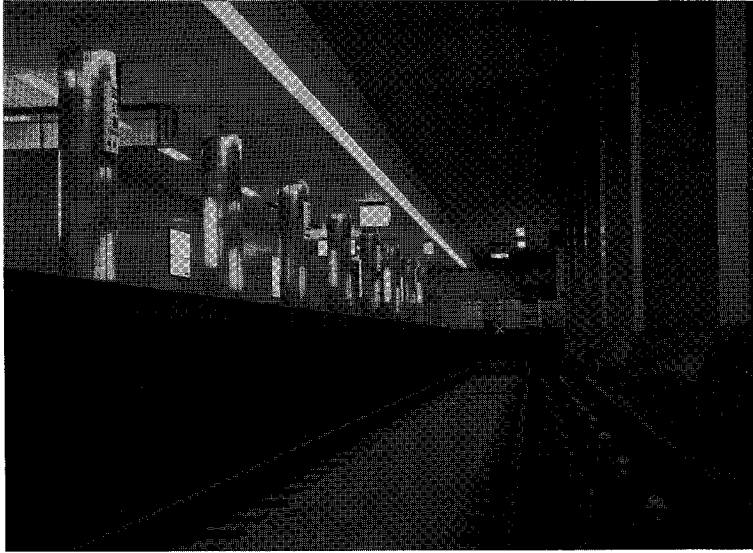
1

2



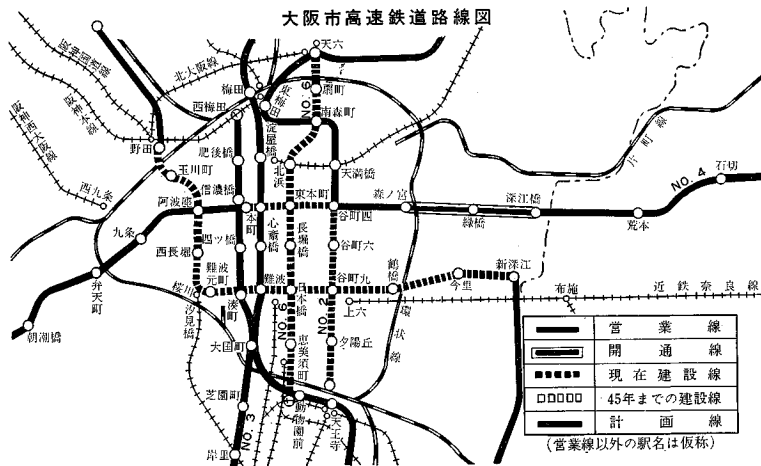
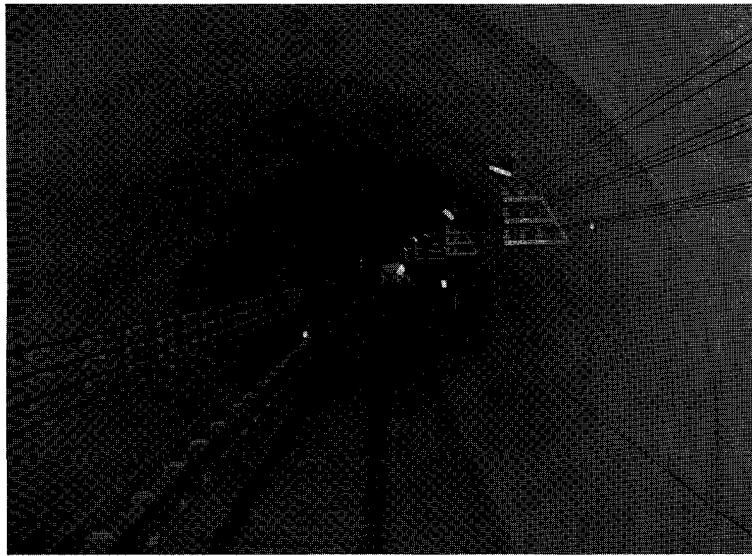
3

東名，中央高速道路は，現在昭和 44 年 5 月，同 3 月全線開通を目標に鋭意工事がすすめられている。本年 8 月末現在の工事推定進捗率は，東名 72.4 %，中央 86.3 % であり，順調にすすんでいるといえる。名神高速道路建設で夜明けを迎えたわが国の高速道路建設工事も，ここによく花開く春日を呈するに至った。写真-1 は本年 7 月号ニュース欄で紹介した浜名湖橋である。写真で見るとおり，橋桁の架設が完了，床版コンクリートを打設中である。写真-2 は川音川橋梁である。本橋は東名全線中最大の PC 橋であり，ディビダーク工法を採用している。小田原市の北側約 10 km に位置する本橋は，国道 246 号線，川音川，小田急電鉄をまたぎ 600 m (30 + 90 × 6 + 30 · R = 1 500 m) の橋長をもつものである。写真-3 は，約 485 m の連続トラス橋酒匂川橋梁の橋脚である。さる 7 月には，本橋脚上で推力 5 t のロケットによる実験が実施された。



大阪市地下鉄4号線 森ノ宮～深江橋 間完成

大阪市地下鉄4号線は市内中心部を東西に貫通するもので、その主要経路は大阪港から船場地区を経て深江橋に至る延長12.3kmの路線である。本4号線のうち今回開通をみた区間は、森ノ宮～深江橋間(2.3km)で、本区間の完成により本町～谷町4丁目間(1.9km)の未完成区間を除き10.4kmが開業したこととなる。上の写真は深江橋停留場、下の写真は森ノ宮～緑橋間の単線シールドである。



建設技術者のための測定法

新刊

土木学会誌に連載された講座「測定」を
読者の要望にこたえて全面的に改筆・加
筆した決定版です。

技術革新のいちじるしい現代では、あら
ゆる現象を定量的にとらえて技術を推進
してゆかなければなりません。

本書は建設工事に従事するすべての技術
者に必須な知識である「測定」に関する
初めてのユニークな単行本です。

目次

- 第1章 総説
- 第2章 測定器械 2.1 流体に関する測定器 2.2
固体に対する測定器 2.3 電気変換測定装置
2.4 電波・レーザー光および音波利用測定機
2.5 記録装置
- 第3章 測定値の処理法 3.1 データのまとめ 3.2
母集団と標本 3.3 確率分布 3.4 標本分
布 3.5 推定 3.6 検定 3.7 実験式の
あてはめ 3.8 周期的変動をする測定値の処
理 3.9 現象解析上の統計処理
- 第4章 気象に関する測定 4.1 気圧に関する測定
4.2 気温に関する測定 4.3 湿度に関する
測定 4.4 蒸発に関する測定 4.5 霧に関
する測定 4.6 雨に関する測定 4.7 雪に
関する測定 4.8 風に関する測定
- 第5章 地盤に関する測定 5.1 土質に関する測定
5.2 岩盤に関する測定 5.3 地すべり、砂
防に関する測定
- 第6章 水に関する測定 6.1 流水に関する測定 6.2
河川に関する測定 6.3 海岸に関する測定
- 第7章 構造物に関する測定 7.1 応力および振動の
測定 7.2 ダムに関する測定 7.3 橋梁(上
部工)に関する測定 7.4 橋梁(下部工)に
関する測定 7.5 トンネルに関する測定
- 第8章 交通運輸に関する測定 8.1 道路に関する測
定 8.2 鉄道に関する測定 8.3 空港に関
する測定
- 第9章 衛生工学に関する測定 9.1 上水、工業用水
に関する測定 9.2 下水道に関する測定 9.3
水質汚濁に関する測定 9.4 大気汚染に関す
る測定

A 5判 422ページ上製

■定 価 2000 円□

□会員特価 1800 円■

<送料は 110円です>

土木学会測定法編集小委員会

委員長 高田 孝信

委員 伊吹山四郎 奥田 穰

久保慶三郎 合田 良実

佐藤 裕 高橋 彦治

谷口 敏雄 服部昌太郎

樋口 芳朗

委員兼 柏谷 衛 土屋 昭彦

幹事 中村 英夫 林 正夫

山本 稔 渡辺 隆

◁ 申込方法 ▷

代金に送料を添え前金でお
申込み下さい。まとまった
お申込みは送料が安くなり
ますのでご相談ください。

郵便番号 160

東京都新宿区四谷1丁目

電話 351-4131(直)

振替 東京 16828

取引銀行□第一銀行八重洲口

支店・四谷支店/住友銀行麴

町支店/三菱銀行四谷支店/

富士銀行四谷支店

 土木学会

土木技術者のための振動便覧

重版

目次

基礎編

- 第1章 振動理論 1.1 自由度系の振動 1.2 多自由度系の振動 1.3 非線型振動 1.4 自励振動 1.5 不規則振動
- 第2章 地盤の振動 2.1 地盤を伝わる波動 2.2 弾性波の反射・屈折 2.3 境界を伝わる波動 2.4 地層の共振 2.5 上載荷重による地盤の振動 2.6 地盤のソイルプリズムとしての取り扱い 2.7 地盤の λ 値による取り扱い
- 第3章 構造物の振動 3.1 棒の縦振動 3.2 はりの振動 3.3 トラスの振動 3.4 連続ばり、ラーメンの振動 3.5 つり橋の振動 3.6 アーチの振動 3.7 膜・板の振動 3.8 Rayleigh-Ritzの方法
- 第4章 流体を含む系の振動 4.1 自由表面の振動 4.2 管路の振動 4.3 圧縮性流体 4.4 平板に沿うまたは管中の振動流 4.5 静水に接する物体の振動 4.6 流水中の物体の振動
- 第5章 振動測定および各種解析法 5.1 基本的事項 5.2 測定および試験計器 5.3 測定結果の解析 5.4 測定・解析の自動化
- 第6章 土と材料の動的性質 6.1 土の動的性質 6.2 岩石の動的性質 6.3 歴青材料の動的性質 6.4 コンクリートの動的性質 6.5 鋼の動的性質

応用編

- 第7章 地震による振動 7.1 地震学概論 7.2 地震津波 7.3 地震時の土圧 7.4 地震時の水圧 7.5 震度法と設計震度 7.6 静的耐震設計 7.7 動的耐震設計 7.8 耐震設計施工上の注意
- 第8章 風による振動 8.1 風の特長 8.2 風害 8.3 物体に作用する風力 8.4 風による構造物の振動 8.5 土木構造物の耐風設計 8.6 風洞実験
- 第9章 水による振動 9.1 静水の慣性抵抗圧 9.2 管路および開水路における振動 9.3 流水による水理構造物・水力機械の励振 9.4 キャビテーション 9.5 波の特長 9.6 セイシュおよび副振動 9.7 波による浮体の運動 9.8 波による構造物の振動
- 第10章 車による振動 10.1 車両振動の特長 10.2 鉄道線路の振動 10.3 道路の振動 10.4 橋梁の振動 10.5 地下埋設物の振動 10.6 走行面の整正限度
- 第11章 機械による振動 11.1 機械振動の特長 11.2 機械基礎の振動 11.3 防振法 11.4 流体機械の振動 11.5 建設機械の振動
- 第12章 衝撃的現象 12.1 なだれ 12.2 落石 12.3 落下水 12.4 発破 12.5 くい打ち 12.6 衝突
- 第13章 振動の利用 13.1 地質調査 13.2 振動による構造物調査 13.3 超音波の利用 13.4 常時微動の利用 13.5 振動を利用した工用機械
- 付録 A1 耐震規定 A2 耐風設計規定 A3 構造物の固有振動数 A4 構造物の対数減衰率 A5 振動に対する λ 限度

A5判 436ページ上製

■定価 2400円□

□会員特価 2000円■

<送料は110円です>

土木学会土木振動学便覧編集小委員会

委員長 大地 羊三
委員 伊藤 学 池田 康平
石原 研而 大久保忠良
表 俊一郎 久保慶三郎
小坪 清真 小寺 重郎
小林 芳正 後藤 尚男
合田 良実 佐藤 吉彦
佐野 豪一 桜井 彰雄
白石 成人 武川 恵之助
堤 一 中川 義徳
伯野 元彦 林 聡
日野 幹雄 平島 政治
福地 合一 堀井 健一郎
宮崎 昭二 山田 善一
山村 和也 芳村 仁

<申込方法>

代金に送料を添え前金でお申込み下さい。まとまったお申込みは送料が安くなりますのでご相談ください。

郵便番号 160

東京都新宿区四谷1丁目

電話 351-4131(直)

振替 東京16828

取引銀行□第一銀行八重洲口

支店・四谷支店/住友銀行麴

町支店/三菱銀行四谷支店/

富士銀行四谷支店



土木学会

土木計画学講習会テキスト 1

土木学会の中に土木計画学研究委員会が誕生してから丸2年たちます。京都大学に土木計画学の講座が出来たのが昭和33年、土木計画学発展の必然性からみて委員会のスタートはむしろ遅きに失したともいましょう。土木計画の範囲、土木計画はいかにあるべきか等の基礎理念をめぐって種々の討論が活発に行なわれ、とぼしい学会予算の中で非常に無理な運営が続けられてきました。そして42年1月はじめてシンポジウムが開かれ、150名くらいと予想した参加者が400名を越え、予定会場を変更するという事態に達したとき委員の関心の深さに委員一同大いに勇気づけられるとともに、委員会の責任の重大さを改めて痛感した次第です。つづいて42年11月、第2回のシンポジウムが開かれ、着々と問題点を整理しつつ44年1月には第3回のシンポジウムを開く予定になっております。この間、実務に役立つ計画手法を……という声がシンポジウム参加者からあがり去る8月、大阪と東京の2会場に分けて第1回の講習会を開いたところ、全国から300名を越える聴講者がつめかけ熱心な勉強会となりました。

この委員会は、これからも講習会、講演会などを通じて土木計画に対する一般会員への理解を深める一方、土木計画学の体系確立のため問題点をしばった研究を続けてゆくつもりです。

今迄にこの委員会が編集した資料を右へかかげますが、ご一読のうえ御批判いただきたいと思ひます。それと同時に本委員会に対する御希望や御意見をお寄せ下さい。

郵便番号 160

東京都新宿区四谷1丁目

電話 351-4131(直)

振替 東京16828

土木学会

B5判・122頁
写植によるオフ
セット印刷
800円・会員特価
700円
ほかに送料 70円

土木計画問題のシステム化——ネットワークシステムを例にとつて 京都大学 吉川 和広
調査方法および資料整理 東京大学 高橋 裕
道路計画の基礎資料 建設省 山根 孟
将来予測の一般論 岐阜大学 加藤 晃
港湾の整備計画 運輸省 高田 陸朗
都市用水需要の将来予測 大阪府 首藤 和正

① 土木計画学シンポジウム

B5判・134頁
タイプによるオフ
セット印刷
700円
ほかに送料 70円

■委員長挨拶 / 鈴木雅次
■総論 土木計画と土木技術 / 八十島義之助 / 土木計画と公共投資 / 加納治郎 / 土木計画と土木技術へのコメント / 米谷栄二
■土木計画手法に関連して 土木計画とオペレーションズリサーチ / 吉川和広 計画基礎数理 / 佐佐木綱 土木計画手法への反省 / 五十嵐日出夫 施工管理計画 / 佐用泰司 土木計画手法に関連して / 渡辺新三
■総合計画に関連して 国土・地域計画 / 川北米良 / 土木計画と都市計画 / 秀島敏彦 地域に関連する計画における土木計画 / 井上孝
■総合開発と社会開発に関連して 土木計画のあり方と基礎理念—水資源計画部門 / 西川喬 防災計画 / 石原安雄 環境衛生計画—公害を中心として / 山本剛夫 観光計画論から土木計画論へ / 鈴木忠義 産業開発と社会開発に関連して / 高橋裕
■交通計画に関連して 地域計画と交通 / 内田一郎 起終点施設計画と土木計画 / 長尾義三 大都市問題と交通計画 / 毛利正光 都市鉄道計画の基礎理念 / 多谷虎男 交通施設投資の計画体系について / 天野光三 交通計画に関連して / 小川博三

② 土木計画学シンポジウム

B5判・120頁
タイプによるオフ
セット印刷
700円
ほかに送料 70円

■第1回土木計画学シンポジウムにおける土木計画のあり方と基礎理念に関するまとめ / 米谷栄二
■水資源計画 水需要量の予測と計画決定の合目的性 / 佐々木和彦 河川の総合的開発利用計画 / 北野章
■交通計画 コンゴ—共和国の鉱山品輸出増強計画 / 立花文勝 道路計画 / 星野哲三 港湾における計画目標の設定と評価の基準 / 長尾義三 都市交通計画 / 新谷洋二 地域と交通 / 加藤晃
■都市計画・地域計画 理論都市・地域計画への試み / 毛利正光 地域計画に関する一考察 / 大塚友則 都市計画・地域計画 / 渡部与四郎 ほか

定評ある
土木学会
のトンネル
工学書

トンネル 標準示方書

A 5・36頁
100 円
〒 50 円

トンネル 標準示方書 解説

A5・130頁 600 円
会員特価 500 円
〒 70円

関門トン ネル工事誌

B 5・692頁
2000 円
会員特価 1500 円
〒 200円

お申込みは前金で送料
を添えて下さい。

郵便番号 160
東京都新宿区四谷1丁目

土木学会

電話 351-4131(直)
振替 東京 16828

トンネル工学シリーズ 1

第1回トンネル工学シンポジウム

B5判・106ページ トンネル用鋼アーチ支保工の設計施工について/長
400 円・会員特価 大トンネルの地質/トンネル工事における災害の実
300 円(〒 50円) 情について/高熱トンネルの施工について/名古屋
市高速度鉄道のシールド工法について/わが国トン
ネル施工のすう勢と問題点について

トンネル工学シリーズ 2

最近のトンネル工学—工事の実例と話題— 〈第2回トンネル工学シンポジウム〉

B5判・136ページ トンネル標準示方書制定について/青函トンネルに
500 円・会員特価 ついて/国鉄新丹那トンネルについて/羽田海底ト
400 円(〒 50円) ンネルについて/富士川用水導水トンネル工事に
ついて/AN-FO爆剤とその発破法

トンネル工学シリーズ 3

第3回トンネル工学シンポジウム

B5判・146ページ トンネル土圧/トンネル土圧の測定方法と現況/ト
1000円・会員特価 ンネル用鋼アーチ支保工の強度について/トンネル
800円(〒 70円) 掘削における余掘りの実態について/セグメントの
設計について/栗子トンネルの工事計画と施工実績
について/国鉄親不知トンネルの施工実績について
/青函トンネルにおけるウォールマイヤー式トンネル
掘削機の掘削試験について/大阪地下鉄線複線型
と単線型シールドの実施例と問題点/シールド工法
による駅部の施工計画について/わが国における中
小口径シールド工事の現況について

トンネル工学シリーズ 4

わが国シールド工法の実施例・第1集

B5判・338ページ 第I部 工事概要/第II部 設計および実績/第III
2200円・会員特価 部 セグメント/第IV部 シールドおよび付属機械
1800円(〒 110円) /第V部 工食用機械その他/第VI部 主な図表類
/付録
鉄道および道路・下水道・上水道・電力および通信
・地下道その他に分類 158件を収録

トンネル工学シリーズ 5

第4回トンネル工学シンポジウム〈最新刊〉

B5判・268ページ ソ連の地下鉄/アメリカのトンネル工事を視察して
1800円・会員特価 /アメリカにおける山岳トンネル工法/アメリカに
1600円(〒 80円) おけるトンネル掘さく機/アメリカにおける都市ト
ンネル/アメリカにおけるコンサルタント業務/ア
メリカにおける請負工事の諸事情について/アメリ
カのトンネル施工に関する新技術/欧州のトンネル
工事を視察して/欧州におけるトンネル請負工事の
諸事情について/欧州における山岳トンネル工法/
欧州におけるトンネル掘進機について/欧州のシ
ールド工事/欧州における地下鉄工事/欧州における
沈埋工事

内容・主旨紹介

今月号の登載記事の要旨を記してあります。切り取ってパンチカードにはりつけて整理に供して下さい。

特集・大学土木教育／土木学会大学土木教育委員会・同会誌編集委員会

土木学会誌第 53 巻第 9 号, pp. 13~53, 昭和 43 年 9 月 (September 1968)

本特集は、土木学会大学土木教育委員会が主催して本年 6 月 14 日、学会講堂で開催した同題名のシンポジウムの内容を中心にとりまとめたものである。内容は、① 大学土木教育委員会の狙い——現在における大学土木教育の問題点——／高橋 裕、② 大学土木教育に関するアンケートの集計結果と分析、／川本正知、③ 外国における大学土木教育／アメリカ合衆国の場合・林 泰造、ヨーロッパの場合・赤井浩一、④ 高専土木教育の現状と問題点——大学土木教育との関連において——／近藤泰夫、⑤ 大学土木教育に何を望むか／民間ベースからの期待・堀 武男、官庁関係者からの期待・望月邦夫、建設業からの期待・石川六郎、⑥ パネル討論・大学土木教育に何を望むか／大学土木教育委員会、の 6 編からなっている。

特集・昭和 43 年度全国大会開催地区紹介／土木学会中部支部

土木学会誌第 53 巻第 9 号, pp. 54~81, 昭和 43 年 9 月 (September 1968)

昭和 43 年土木学会全国大会は第 23 回年次学術講演会をはじめ、特別講演会、部門講演会、PR 講演会、懇親会、見学会などが名古屋市を中心として開催される。本特集は、本大会を機会に大会を主催する中部支部が編集したもので、中部地区の土木関係記事を紹介したものである。内容は、① 昭和 43 年度土木学会全国大会開催に当って／佐々木正久、② 中部圏開発整備の基本構想／中部圏開発整備本部、③ 木曾川開発／片岡勲二郎、④ 中部地方における道路事情とその対策／長尾 満、⑤ 中部地方における主要土木工事の紹介／中部支部、⑥ 中部地区教育・研究機関の紹介／中部支部、の 6 編からなっている。

海象・気象の観測解析について——京葉港（仮称）における観測の実例——

／仁保武人・鈴木 稔・浜田治男・安部京也・鈴木善三・寺西良輔

土木学会誌第 53 巻第 9 号, pp. 82~87, 昭和 43 年 9 月 (September 1968)

船舶を中心とする京葉港（仮称）の建設が計画されている今時点にあって、当地区の海象・気象資料の入手は大切である。本論文は最近この進歩がいちじるしいエレクトロニクス技術を駆使して（テレメータ方式）海岸工学的資料を有利に入手している実施報告である。今後のこの種調査計画の良き実例となりうるものであろう。

各種構造形式の斜張橋の曲げモーメント、たわみに関する研究——尾道大橋のスパ

ン・断面諸量をそのまま用いて——／長谷川紀夫・成岡昌夫

土木学会誌第 53 巻第 9 号, pp. 88~95, 昭和 43 年 9 月 (September 1968)

スパン連続斜張橋として、尾道大橋を対象として、その断面諸量をそのまま用いて、① ケーブルの桁における取付位置、② 形式、③ ケーブル塔柱側取付条件、④ 塔柱基部などを種々変化させ、支柱上曲げモーメント、中央スパン中央曲げモーメント、およびたわみがどのように変化するかを検討した。

日本の土木技術

100年の発展のあゆみ

第二版発売中 上製箱入

A 5・490 ページ 1200 円 千 110 円

●お申込みは土木学会へ……一括注文は御相談ください●

土木学会が創立 50 周年（1964 年）を記念して出版した土木技術史で、若い技術者とくにこれから土木工学の真随をきわめようとする学生諸君のためには絶好の読物といえる。

I 土木技術と国土の開発 II 水の利用と水との戦い III 交通路の整備 IV 都市の建設 V 材料の進歩と構造技術の進展 VI 基礎技術の進歩 <年表および索引つき>

本州四国連絡橋技術調査報告書

付属資料 1. 耐風設計指針 (1967) および同解説特別頒布

本学会が建設省および日本鉄道建設公団より委託をうけて調査した結果を「本州四国連絡橋技術調査報告書」(4冊一組)として頒布いたしました。そのうち、付属資料 1. の下記指針は、学術的、技術的にもきわめて貴重なものであり会員からの要望もありますので委託者のご厚意により限定部数にかぎり増刷の許可を得、下記により頒布しますので希望者は至急お申込み下さい。

記

目次：第1章 総説／第2章 風の特性／第3章 風速の変動／第4章 設計風速／第5章 静的設計／第7章 動的解析／第7章 構造物に対する風洞実験／第8章 架設中その他の問題点

A 4判, 120 ページ, 活版印刷

頒 価：1200 円 (送料 100 円)

頒布部数：300 部

申込要領：前金で土木学会刊行物頒布係へお申込み下さい。

付属資料 2. 耐震設計指針 (1967) 同解説および耐震設計詳説特別頒布

標記報告書は、増刷の許可を得て“応答を考慮した長大橋の耐震設計に関する講習会(7月16日開催)”のテキストとして頒布いたしました。まだ残部がありますのでご希望の方は至急お申込み下さい。

目次：第1編 本州四国連絡橋耐震設計指針(1967)・同解説／第2編 耐震設計詳説 第1章 諸論／第2章 設計に用いる地震動／第3章 地震時の土圧および水圧／第4章 下部構造／第5章 吊橋／第6章 カンチレバー橋／第7章 アーチ橋

頒 価：1500 円 (送料 100 円)

頒布部数：150 部

申込要領：前金で土木学会刊行物係へお申込み下さい。

「下水道雨水流出量に関する研究」報告書の実費頒布

建設省と土木学会との間に委託研究契約が成立した標記研究が 43 年 2 月末をもって完了し委託者へ報告が提出されました。この報告書は従来、雨水流出量は計算方式によっては相当な差が出るため、全国的に均衡のとれた計画ができるような合理的図表の作成を行なったものであり、計算に要する手数もかなり省略することができることを示しております。学会ではこの貴重な研究成果が、わずか数十部の報告書提出のままで公刊されないことを惜しみ、建設省当局に対し再印刷の許可を申請、幸い一定部数にかぎり特に許可されましたので、下記のとおりご希望の向きに実費で頒布いたしますから、至急ご注文下さい。認可部数に達し次第しめきります。

記

書 名：下水道雨水流出量に関する研究・報告書

内 容：1. はしがき／2. 合理式と実験式について／3. 特性係数法の係数値全国分布図と確率降雨強度式算定法／4. 参考／5. むすび

体 裁：B 5判 90 ページ・写植によるオフセット印刷

頒 価：700 円 (〒 50 円) ただし 10 部以上の注文は特典がありますのでご相談下さい。

申込方法：代金・送料を学会に適宜な方法でお申込み下さい。先着順に発送いたします。

コンクリート標準示方書

昭和 42 年版

B 6・438 ページ 1000 円

会員特価 800 円 〒 100 円

コンクリート標準示方書

解説 昭和 42 年版

A 5・360 ページ 1300 円

会員特価 1000 円 〒 100 円